〇教学アセスメント・ポリシー別表（大学全体）

大学全体の教育目標
【自立心：社会において、独立した責任ある人間として行動するために必要な能力・姿勢】
1-1　「主体性」　自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
1-2　「責任感」　社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
1-3　「自己理解」　自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

【対話力：相手の心をよく理解し、自分の意志をしっかりと伝えるために必要な能力・姿勢】
2-1　「協働性」　立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
2-2　「多様性理解」　自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
2-3　「表現力」　自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

【創造性：自分の力で発想し、自らの力で問題を解決するために必要な能力】
3-1　「論理的思考力」　筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
3-2　「問題発見力」　現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
3-3　「計画・実行力」　課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

番号	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	実施により検証する学習成果（教育目標）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	教育目標に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究等終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度	全て	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・教育目標に掲げる能力等の到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	総括的な学習プログラムの評価	各学科において総括的な学習プログラム（卒業研究等）を実施する科目の成績評価時	毎年	4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（成績評価を通じて能力等の到達度を検証する）	1-1、2-3、3-1、3-2、3-3	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	各学科	・教育目標に掲げる能力等の到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
3	卒業生調査	時期は都度設定	原則として7年に1度	卒業生	・教育目標に掲げる能力等の有用性 ・在学中の学習経験の有用性　等	全て	質問紙による調査結果を検証	卒業生	内部質保証委員会	・教育目標に掲げる能力等の有用性等を検証するとともに、必要に応じて教育目標の見直しやカリキュラムの改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（全学共通教育部）

全学の教育目標に掲げる能力等
【自立心：社会において、独立した責任ある人間として行動するために必要な能力・姿勢】
1-1　「主体性」　自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
1-2　「責任感」　社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
1-3　「自己理解」　自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

【対話力：相手の心をよく理解し、自分の意志をしっかりと伝えるために必要な能力・姿勢】
2-1　「協働性」　立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
2-2　「多様性理解」　自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
2-3　「表現力」　自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

【創造性：自分の力で発想し、自らの力で問題を解決するために必要な能力】
3-1　「論理的思考力」　筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
3-2　「問題発見力」　現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
3-3　「計画・実行力」　課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果 （上記の能力等）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度	全て	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点等を検証	教員	学科	・評価点の分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（日本語日本文学科）

文学部日本語日本文学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。
1-2　日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。
1-3　日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
2-2　収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。
2-3　内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。
3-2　伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。
3-3　他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
3-4　日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業論文終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	1-3、2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3、3-4	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業論文評価	卒業論文の成績評価時	毎年	4年生	・卒業論文（学修の集大成）の到達度	全て	主査・副査による口頭試問	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。 ・「卒業論文梗概集」「卒業論文梗概集抄」の作成・配布。
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	教職研鑽会での模擬授業評価	11月	毎年	3年生	・教育実習へ向けての到達度	1-1、1-2、1-3、2-1、2-3、3-1、3-3	模擬授業に対する授業評価票	教員・学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。 ・「教職研鑽会報告書」の作成・配布。

○教学アセスメント・ポリシー別表（英語英米文学科）

文学部英語英米文学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　社会に貢献するための高度な英語運用能力を身に付けている。
1-2　英語圏の文化・文学の特徴や英語を中心とした言語の仕組みについて専門的な知識を身に付けている。
1-3　日本語及び英語で書かれた文献から必要な情報を読み取り、収集した情報を論理的に伝えることができる。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　高度な英語運用能力に基づいて自分の考えを英語で発信し、他者に対して説得力のある説明ができる。
2-2　英語圏の文化・文学または英語という言語について自ら研究テーマを見つけ、多角的な観点から分析し、新たな視点で考察することができる。
2-3　日本語及び英語で書かれた文献から読み取った情報に基づき、自分の考えを論理的に組み立てて表現できる。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　高度な英語運用能力と専門的知識に基づき、社会に貢献しようとする責任感を持っている。
3-2　英語圏の文化・文学・語学を通して、多様なものの見方や考え方に基づく国際協調の精神を持っている。
3-3　対話的な学びを通して、他者と協調・協働して学び合う姿勢を持っている。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	3-1、3-2、3-3	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	1-1、1-2、1-3、2-1、2-2、2-3	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究等評価	卒業研究等の成績評価時	毎年	4年生	・卒業研究等の学修の集大成の到達度	全て	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、研究完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	3-1、3-2、3-3	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	資格取得状況	5月、7月、10月、12月	毎年	1～4年生	・TOEIC（IPまたは公開テスト）のスコア	1-1	試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、TOEIC関連授業並びにTOEIC対策特別講座のクラス設定などの改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表 （国際教養学科）

文学部国際教養学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　日本と世界の動きを双方向に俯瞰できる基本的な歴史観と教養を備えている。
1-2　国際関係分野における幅広い知識と教養を持ち、グローバルな諸課題への理解と深い関心を持っている。
1-3　海外留学先の歴史・文化・宗教・社会構成などに深い関心と基本的な知識を持っている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　物事を複眼的・多面的に観察・理解しようとする思考力を備え、公正・批判的に判断できる基本的な力を持っている。
2-2　自らの主張や意見を口頭あるいは文書によって論理的・説得的に伝える力をもっている。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　体験から学び、主体的・自立的に問題を発見し解決する基本的な力を持っている。
3-2　グローバルな視点を持ちながら、自らの置かれた場で、地域の発展や課題解決に関わろうとする意欲を持っている。
3-3　世界の多様性や他者の多様な価値観を理解し尊重できる素養を備えている。
3-4　地域社会に積極的に関わり、人々と協力・協働して行動できる。
3-5　グローバルな時代だからこそ、ローカルの重要性を認識できる視点を備えている。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	-1、2-2、3-1、3-2、3-3、3-4、3-	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究等評価	卒業研究等の成績評価時	毎年	4年生	・卒業研究等の学修の集大成の到達度	1-1、1-2、1-3、2-1、2-2、3-2、3-3、3-5	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、研究完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	資格取得状況	3月	毎年	4年生	・国内および総合旅行業務取扱管理責任者資格の取得状況（国家試験合格率）	1-1、1-3、2-1、3-3、3-5	試験結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。
7	語学関連資格取得状況	7月、12月	毎年	1,3年生	・TOEICのスコア（学科独自のスケジュールで受験）	1-2、1-3、2-2	試験結果を検証	教員	学科	・スコアについて、前回との比較、留学前と後との比較等を行い、必要に応じて学習指導を行う。 ・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表 （史学科）

文学部史学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身につけている。
1-2　自己の研究課題に関する資史料（文献史料・考古資料・民俗資料など）の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
2-2　幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
2-3　課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。
2-4　読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。
2-5　演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
3-2　多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座の確立する能力を有している。
3-3　演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果 （DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業論文審査終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	全て	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究等評価	卒業研究等の成績評価時	毎年	4年生	・卒業研究等の学修の集大成の到達度	全て	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、研究完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	検定試験の受験状況	3月	毎年	1～4年生	歴史能力検定、世界遺産検定、古文書解読検定、各種語学検定の受験状況・試験結果	1-1、1-2	受験状況、試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。

○教学アセスメント・ポリシー別表（教育学科）

文学部教育学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　教育学・保育学・心理学における基本的な知識・技能を修得している。
1-2　教育学・保育学・心理学における専門的な知識と実践的な力の基礎を修得している。
1-3　子どもの成長や発達について、科学的に理解している。
1-4　一般教養および教員にふさわしい幅広い知識を備えている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　よりよい社会をつくるための教育について考えることができる。
2-2　子どもの成長や発達を多角的な視点から柔軟な発想や感性でとらえたり、判断したりできる。
2-3　教育・保育の方法や心理学的な援助の方法を「創造性」豊かに考えてそれを実践することができる。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　教育学・保育学・心理学に関心をもち、その幅広い分野の知識・技能を主体的に修得していく意欲と態度がある。
3-2　修得した知識・技能をさまざまな場面で活用しながら自ら問題解決していける「自立心」を身につけている。
3-3　教育における現代的な課題に対し、多様な価値観を尊重するとともに「対話力」をもって自らの意志を伝えながら問題解決していくことができる。
3-4　教育学・保育学・心理学についての専門性を身につけた者として、他者と協調・協働しながら教育目標を実現していくことができる。
3-5　教員という職業自体が社会的に特に高い人格・識見を求められる性質のものであることから、教員としての使命感を自覚し、その資質向上のためにたゆまず研鑽を積む態度と幼児・児童・生徒に対する教育的愛情をもつことができる。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究等評価	卒業研究等の成績評価時	毎年	4年生	・卒業研究等の学修の集大成の到達度	2-1、2-3、3-2、3-5	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、研究完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	免許・資格取得状況	3月	毎年	4年生	免許・資格の取得状況	1-1、1-2、1-3	免許・資格取得結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや免許・資格取得支援体制等の改善を行う。
7	就職状況	3月	毎年	4年生	教員採用試験、公務員試験（技術吏員、保育士、幼稚園教員、認定こども園保育教諭等）私立幼稚園、保育所、認定こども園等	1-1、1-2、1-3	各種就職試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや就職支援体制等の改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（家政学科）

家政学部家政学科のディプロマ・ポリシー（DP）

【知識・技能】

1-1　生活の質の向上と人類の福祉に貢献するための家政学の目的と意義を理解している。

1-2　家政学全般についての基本的知識と理解の上に立ち、被服、住居、生活経営の各領域についての専門的知識・技能をもっている。

1-3　人文科学、社会科学、自然科学、情報処理等の基礎的な知識をもち、生活に関する問題解決のために活かすことができる。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

2-1　社会全体の発展やグローバルな問題について、生活に基盤を置く地道な視点で考察することができる。

2-2　社会の問題を発見し、科学的な知識および専門的技能により解決に必要な情報を収集・整理・分析する能力をもっている。

2-3　個人、家族、コミュニティ、福祉の視点から、より質の高い生活のありようを提案するためのコミュニケーション能力をもっている。

【主体性・多様性・協働性】

3-1　社会変化に追随して受動的になりがちな生活の問題点を指摘し、個人や家族の価値を堅持し、主体的で創造的な生活の実現を目指す意欲や実践力がある。

3-2　よりよい生活の実現に向けて、他者の多様な価値観を理解して尊重し、円満な人間関係を基盤に人々と協調・協働ができる。

3-3　責任ある消費者市民として環境問題や人権問題に配慮した消費行動ができ、啓発活動や企業活動に参画することができる。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	実施により検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	1-2、1-3、2-3、3-1、3-2	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対してクラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究評価	2月	毎年	4年	・卒業研究の到達度	1-1、1-2、1-3、2-1、2-2、3-1	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。（加えて、研究完了に至るまで行う指導の際に評価指導・ツールとして用いる。）
5	学習成果に関するアンケート	入学、進級時のオリエンテーション時 卒業年度生の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	外部テスト	7月	毎年	1、3年	・ジェネリックスキル（リテラシーとコンピテンシー）の習得度	2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3	結果のまとめ	学生	全共教	・2年間の差異からDPの到達度を検証する、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表 （管理栄養士養成課程）

家政学部管理栄養士養成課程のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1 社会・環境と健康についての知識と理解を基盤とした健康に関する知識を有している。
1-2 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについての知識と理解を基盤とした健康と栄養に関する知識を有している。
1-3 食べ物と健康についての知識と理解を基盤とした健康と食に関する知識と技能を有している。
1-4 臨床病態についての健康と栄養に関する知識と技能を有し、栄養ケアプランの作成ができる。
1-5 対象者の状態に沿った食事の調理・提供及び食事・栄養管理ができる栄養と食に関する知識と技能を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1 健康、栄養、及び食に関する問題点を発見し、解決に必要な情報を科学的根拠（エビデンス）に基づき収集・整理・分析する能力を有している。
2-2 健康、栄養、及び食に関して収集・整理・分析した内容を、他者に適切に伝達するプレゼンテーション能力を有している。
2-3 健康増進や疾病予防、治療につながる栄養状態に応じた栄養マネジメントの実施能力を有している。

【主体性・多様性・協働性】
3-1 管理栄養士としての職務に対する責任感を身に付けている。
3-2 管理栄養士として他者と協調して行動でき、自らの考えを伝えることができる。
3-3 管理栄養士として自らの力で課題を発見し、それを解決することで社会に貢献可能な実践力を身に付けている。
3-4 健康・栄養問題とそれらを取り巻く自然や社会、経済、文化的要因に興味を持ち、自ら学ぶ意欲を持っている。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3、3-4	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究等評価 （管栄は未実施）	卒業研究等の成績評価時	毎年	4年生	・卒業研究等の学修の集大成の到達度	2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3、3-4	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、研究完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	学力確認試験	4月～5月	毎年	1～4年生	・全学年国試レベルの同一問題による試験の成績	全て	試験結果の検証，5の結果との相関等の検証	教員	国家試験対策委員会	・全学年同一問題による学力試験で，DPに掲げる知識・能力等の習得度を把握し，5のアンケートと合わせて学生個々の到達度を可視化する。 ・学年ごとの学生指導上の資料とし，国試対策につなげる。
7	国家試験対策のための補講出席状況	4月～2月	毎年	4年生	・管理栄養士国家試験対策補講の出席状況	3-1、3-2、3-3、3-4	出席状況を検証	教員	国家試験対策委員会	・複数の出席回毎に、出席不良者に対してゼミ担当教員及び国家試験対策委員会が指導を行う。 ・学生の国試補講出席状況と合格率との関係を統計的に解析し、そのデータを基に国試対策の方法を検討する。
8	国家試験対策のための模擬試験成績	4月～2月	毎年	4年生	・管理栄養士資格対応模擬試験の成績	1-1、1-2、1-3、1-4、1-5	試験結果から国家試験対策の進捗状況を検証	教員	国家試験対策委員会	・模擬試験毎に、成績不良者に対してゼミ担当教員及び国家試験対策委員会が指導を行うとともに、全学生の国家試験対策の進捗状況を把握し評価する。 ・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。 ・模擬試験の成績（学内・学外で実施された模擬試験成績及び各時期・各学生における推移・伸び率等）と国試合格との相関関係を統計的に解析し、そのデータを基に国試補講のやり方や、成績が下位20%に相当する学生への対応を考える。最終的に合格率向上に繋げることを目指す。
9	資格取得状況	3月	毎年	4年生	・管理栄養士資格の取得状況（国家試験合格率）	1-1、1-2、1-3、1-4、1-5	試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（社会福祉学科）

健康福祉学部社会福祉学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　多様な福祉課題を客観的に読み解き、その解決法を見出すために必要な社会福祉の専門的な知識を備えている。
1-2　多様な福祉課題の解決に向けて、社会に貢献していくために必要な社会福祉の専門的な技能を身につけている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　家庭・地域社会・職場などで発生する多様な福祉課題に気づき、それをクリティカルに読み解くために求められる思考力を有している。
2-2　多様な福祉課題の解決に向けて、人々の日常生活や社会生活を、福祉の視点で捉えるのみならず、人々の文化的背景も大切にしながら、包括的にマネジメントするために必要な判断力と実践力を有している。
2-3　福祉・保健・医療・教育・心理などの専門職から当事者・地域住民まで、幅広い機関・団体や人びととの信頼関係を築き、豊かなコミュニケーションを図るために必要な共感性と表現力を備えている。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　家庭・地域社会・職場においてー市民としての自覚を持ち、また社会福祉専門職としての使命感を持って、社会に貢献していくための主体性を備えている。
3-2　現代社会における人びとのダイバーシティ（多様性）を尊重し、すべての人を等しく大切にできる柔軟で寛容な姿勢を有している。
3-3　誰もが等しく大切にされる公正な社会を築くために、異なる背景や価値観をもつ人びととも対等かつ民主的な関係性（パートナーシップ）を形成し、協働していく力を有している。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業論文評価	卒業論文の成績評価時	毎年	4年生	・卒業論文の完成度	1-1、2-1、3-1、3-2、3-3	学科作成の卒業論文評価基準に基づき卒論発表会において主査・副査の教員が行う評価	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	資格取得状況	3月	毎年	4年生	・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士資格の取得状況（国家試験合格率）	1-1、1-2	試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。
7	国家試験対策アンケート	5月～1月	毎年	4年生	・社会福祉士国家試験対策講座の満足度	1-1、1-2	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じて国家試験対策講座の内容改善を行う。
8	実習評価	6、10月	毎年	3年生	・相談援助実習の目標到達度	全て	実習先評価を検証	実習指導者	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや実習教育研究会の内容改善を行う。
9	就職内容評価	3月	毎年	4年生	・社会福祉専門職への就職割合	3-1	就職内容を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや卒業生研究交流会の内容改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（健康スポーツ栄養学科）

健康福祉学部健康スポーツ栄養学科のディプロマ・ポリシー（DP）
【知識・技能】
1-1　栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。
1-2　健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1　栄養学やスポーツ科学を中心とする領域において、適切な思考・判断ができ、以下の分野において活躍が期待できること。
（1）小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。
（2）アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。
（3）国際貢献ができる能力を持つ。
2-2　社会人として、自ら考えて行動する能力（思考力・自立心）・周囲と情報を交換し共有する能力（コミュニケーション力・対話力）・問題を適切な方向に解決していく能力（問題解決力・創造性）を身に付けている。
2-3　世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質（自立心・対話力・創造性）を有している。

【主体性・多様性・協働性】
3-1　栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ（知識・技術の向上および最新情報の収集を行う）能力を有している。
3-2　国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。
3-3　地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果 （DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	2-1、2-2、2-3、3-1、3-2、3-3	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究等評価	卒業研究等の成績評価時	毎年	4年生	・卒業研究等の学修の集大成の到達度	全て	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、研究完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	資格取得状況	3月	毎年	4年生	・資格（健康運動実践指導者、スポーツ栄養アドバイザー）の取得状況（認定試験の合格率）	1-1、1-2	試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。
7	認定試験成績	12月	毎年	4年生	・栄養士実力認定試験の成績	1-1、1-2	試験結果を検証	実施団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善や受験者数向上対策を行う。
8	ボランティア活動	通年	毎年	1～2年生	・地域学習におけるボランティア活動の参加状況	1-2、2-2、3-3	活動参加を検証	教員	学科	・活動参加を促進し、DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（看護学科）

看護学部看護学科のディプロマ・ポリシー（DP）

ディプロマ・ポリシーでは、看護学科学士課程で身につけるべき能力（看護実践力・人間力・専門職業人・調整力）をあげ、それを実現するための具体的な学力の要素を示した。
以下の能力を身につけ、本学科のカリキュラムに定められた所定の単位を修得した者に学士（看護学）の学位を授与する。

1. 地域の保健医療福祉システムの中で生活している人々に対して看護ケアを自立して行う基礎的能力が身についている。
2. 専門職業人として、生涯にわたって職業創造をしていく基礎的能力が身についている。
3. 医療専門職として、倫理的実践および道徳的態度が身についている。
4. 地域全体の保健医療福祉システムの中で、看護職間や他職種間で連携・協働していく基礎的能力が身についている。

【知識・技能】
1-1 （プロフェッショナリズム） 生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。
1-2 （科学的根拠に基づいた課題対応能力） 人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。
1-3 （人が病むことへの関心と理解） 生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】
2-1 （人間性の涵養） 多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。
2-2 （看護の表現力） 自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。
2-3 （倫理的実践と道徳的態度） 看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。

【主体性・多様性・協働性】
3-1 （社会参加） 社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探求していける。
3-2 （協働・協力） 保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していける。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	1-1、1-2、2-1、3-1、3-2	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対し、クラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD・SD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	課題探究評価	課題探究の成績評価時	毎年	4年生	・課題探究等の学修の集大成の到達度	全て	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。 （加えて、課題探求レポート完了に至るまでに行う指導の際に、評価指標・ツールとして用いる）
5	学習成果に関するアンケート	12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	資格取得状況	3月	毎年	4年生	・看護師・保健師・助産師資格の取得状況（国家試験合格率）	1-1、1-2、1-3、2-3	試験結果を検証	認定団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。
7	模試成績	（2、3年生）4月 （4年生）7、10、1月	毎年	2～4年生	・看護師資格対応模試の成績	1-1、1-2、1-3、2-3	試験結果を検証	実施団体	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムや資格取得支援体制等の改善を行う。

〇教学アセスメント・ポリシー別表（心理学部心理学科）

心理学部心理学科のディプロマ・ポリシー（DP）

【知識・技能】

1-1　心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。

1-2　人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

2-1　人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。

2-2　修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。

2-3　修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。

【主体性・多様性・協働性】

3-1　心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。

3-2　人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。

3-3　修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。

No	名称	実施時期	実施周期	対象	内容・質問項目	実施により検証する学習成果（DP）	方法	評価者	実施者	結果の活用方法
1	「自立心・対話力・創造性」に基づく到達度調査	前期：5月～7月 後期：卒業年度の卒業研究終了後	毎年	1～4年生	・教育目標に掲げる能力等の到達度（当該能力と対応するDPの到達度を検証）	全て	質問紙（ルーブリック）による調査結果を検証	学生	内部質保証委員会	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラムの改善を行う。
2	成績評価	前期：9月 後期：2月	毎年	1～4年生	・正課科目の成績	全て	評価点やGPAを検証	教員	学科	・成績不良者に対してクラス担任が履修指導を行う。 ・得点分布等に基づき授業内容や成績評価の妥当性を検証するとともに、必要に応じてその改善を行う。
3	授業アンケート	前期：7月 後期：12月 （一部授業を除く）	毎年	1～4年生	・授業の理解度 ・授業の満足度　等	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	FD委員会	・履修者の授業理解度や満足度等を検証するとともに必要に応じて授業内容等の改善を行う。
4	卒業研究評価	2月	毎年	4年	・卒業研究の到達度	全て	ルーブリックによるパフォーマンス評価結果を検証	教員	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じて授業内容等の改善を行う。（加えて、研究完了に至るまで行う指導の際に評価指導・ツールとして用いる。）
5	学習成果に関するアンケート	入学時および12月～2月	毎年	1～4年生	・DPに掲げる知識・能力等の習得度	全て	質問紙による調査結果を検証	学生	学科	・DPの到達度を検証するとともに、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。
6	外部テスト GPS-Academic	7月	毎年	1、3年	・ジェネリックスキル（リテラシーとコンピテンシー）の習得度	1-2、2-3、3-1、3-2, 3-3	結果のまとめ	学生	全共教	・2年間の差異からDPの到達度を検証し、必要に応じてカリキュラム等の改善を行う。